



浮色転生

魂変わったら
本気射精す

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

浮色極上

魂変わったら
本気射精す

※注意※

「この本のルーデウスは別人です

ルーデウスの肉体に別人のヤリチングズの魂が宿り
六面世界を好き放題に荒らし回っていくifストーリーです
キャラ解釈の不一致やご都合展開にご注意ください!」

The Rudeus of this book is a different person.

The soul of a slutty scum inhabits the body of Rudeus, a different person from the official one.
This is an if story in which the six-sided world is ravaged as much as he likes!
Please beware of inconsistencies in character interpretations and convenient developments!

著：ふくよん
訳：テーブ・エル

両手で數え切れない女を相手に
好き放題やつてきた俺(34歳無職)は

そのツケが回つて
刃物片手のオンナから逃げていた

目覚めると
金髪美女のデカ乳が
俺に押し付けられていた

やかましく叫ぶデブを突き飛ばし
道を渡ろうとした俺は
制服姿のガキどもを避けきれず…

第2の人生を得た俺は
前世の失敗を糧に
今度こそ完璧なハーレムを作
ろうと決心した

家庭教師として付けてもらったロキシーは
その手始めに丁度良いと思つていたら…
ある晩パウロとゼニスの情事を覗き見する彼女を目撃してしまつた！

「こうやつて舐めると
イイんですか？」

「先生、そんなどころで
何をやつているんですか？」

「るつ、ルディ！」
「いえ、これはその、
魔力回復に必要なことでしで…」

「そう、
上手ですよルディ
…んんっ♥」

水聖級試験を修めた俺は
卒業祝いにロキシーの体を求めた
生前の心的外傷から沈黙していた相棒が
ロキシーには反応していたからだ

「だからそういう事は
将来好きな子など…」

「10年後なんて待てません!
先生のせいでのこんなになつてるんです」

「な、なんですか?
この大きさは…?」

「ルーディは本当に初めてなんですか!?
イキ過ぎて苦しいのに
また不かされるつつ♥♥」

ロキシーのおかげで
相棒はすっかり元気になつた
去り際にねだつた
染み付くパンツを毎晩嗅ぐことに
彼女への尊敬の念は深まるばかりだ

パンツ

ドクン

ザカツ

パンツ

パンツ

パンツ

クソガキどもから助けた少女シルフィは
少年のような姿だが将来が楽しみな素材だ
ロキシーの次は
従順な彼女を俺好みに教育していく

雨に降られた俺たちは、
自宅で一緒に湯浴みをする
真っ白い肌に惚れ惚れするね

「ルディ、ボクの身体なんかで、
満足できる…？」

「魔術を教わるお礼が、
本当にこんなのでいいの…？」

「こうして貰えるのが
一番嬉しいんだ、
いい具合だよシルフィ」

「シルフィは
将来美人になるだろうけど、
今のままで
十分可愛いしねちだよ」

「や、やだあ…♥」

シルフィイの穴は俺の息子にはあまりにも小さいが
彼女は懸命に体を張つて奉仕をしてくれる
その気持に誠心誠意
応えて腰を振るのが俺の役目だろう
ハードな締付けで気持ちよくなないと言えば嘘だ

「シルフィイ、痛いか？」

「だ、大丈夫つ…
慣れてきたからもつと激しくしても
いい、よつ
♥ ♥」

ドアから覗き見する二人の姿に
気づいていなかつたのだが：

そんなシルフィイのロリ穴キツマンコに
夢中になつていた俺は



ゼニスは俺を叱責するためには
リーリヤを連れてやつて来たが
心ここにあらずの様子な二人とも
視線は明らかに俺の股間を向いていた

ハウロが夜回りで不在の間に
わざわざの来訪なのだ、
察しろという事か

案の定、ちんぽを出すや否や
リーリヤはそれに
むしゃぶりついてくる
夜な夜な夫婦の宮みを聞かされ
させぞ欲求不満たつたのだろう
ゼニスはそんなりーりヤの
行動を制止できていない、
あれだけ毎日お盛んなのにまだ足りないの？

「ルーデウス様、具合はいかがでしようか？
せひその逸物より子種を私にお恵み下さい♥」

「ルディ　そういうのはもつと
大きくなつてから…
大きい…♥♥」

あひ

「ルディ、激し過ぎる♥♥
もつと優しく♥♥してえ♥♥」

「ミリスの教えに背いて
実の息子に手を出す、
罪深い母様への罰ですよ！
しっかり反省して下さい！」

二入はスキあらば俺に体を求めるようになつた
それでいてハロウとの情事も欠かさないのだから
女というのは恐ろしい

あひ

アア

「反省してるう！
反省アクメ捧げるから許してえ♥♥」

ニスは念願の
第2子ノルンを授かり

アイシャを孕んだリーリヤも
第2夫人として
すんなり我が家に受け入れられた

二人の父親がどちらなのかは
俺にも分からぬが
親子丼を味わうのが今から楽しみだな

はー

はー

三人を足がかりに
ブエナ村の女を堪能し尽くしたが
夢のハーレムには程遠い

魔法大学でのグローバルな女漁りを目標に
学費捻出のためにボレアス家の
家庭教師を引き受けることになった

15歳の誕生日までエリスの純潔には
手を出さない事にした
それまでにウンコで
仕立ててやろう
じっくりと主従を躊躇して
イキ狂うケツ穴ジヤンキーに
ハーレムの番犬として
飼つてやつてもいいな

「お尻ばつかり切ないのお！
前も使つてニヤン♪♥♥

「ルーデウスまだ⁈
もう我慢できないわっ ♥♥」

「駄犬がニャンニャンと
媚を売つても無駄です
お勉強をよく頑張らないと
お尻もお預けですよ！」

「まだですよお嬢様。

待てです、待て！
待てない子にご褒美はお預けですよ！」

剣王ギレースは実直な女に見えるが
視線はいつも俺の顔と股間を行き来していいで
メス臭い体臭をブンブンさせてるのもバレバレだ

「ルーデウス、本当に
こんなのが読み書きの
礼でいいのか？」

「ええ、ギレースの強烈な
ワキ臭が私は大好きで
スー、ハー……こうやって直接嗅ぐと
本当に臭くて興奮します」

「ならないんだが…
あまりそう臭い臭いと言うな…」

安易に体を求める焦らすのも
メス犬に調教する上で重要だ
ギレースは長く我慢できる様な女じゃない
パウロ愛用の肉壺には自ら蓋を開けてもらおう

「ルーデウス
お前お気に入りの汗臭い足で
擦られて満足か？」

「すまないが私からも
頼みたいことがあつてな…♥」

「ジクツ

「ジクツ

エリスの母ヒルダは息子を取られた穴埋めを欲していた
ならその穴は俺がハメてやれば済む話だ
孤独な少年を装い同情を誘うと
ヒルダはあつさり抱き上げてくれた

「ルディ、お母さんのおっぱいは美味しい？
お乳が出なくてごめんなさいね」

「お母さんの体なんかで
こんなに大きくして
もらつて嬉しいわ♥」

「ルディのおちんぽ！
フイリップより
おおきイイっつ♥♥」

「母様
また出ますよ…うつ！」

旦那のフイリップは獣族に首つたけで、ヒルダは欲求不満だったようだ
この年齢を感じさせない張りの良さと
締め付けの強さを前に
なんと贅沢な若旦那だ：
これからエリスとヒルダが
競つて俺に媚びるようになつたのは
実に愉快だつたな

エリス、ギース、ヒルダの三人を連れての青姫の真つ最中光に飲まれて駄犬のケツ穴と繋がつたまま魔大陸まで飛ばされてしまつた

別れ際には脱ぎたてパンツまで頂いてしまつたお義母さま
今度は娘さんと一緒にやりましょうね！

はーい

ルイジエルドの手助けを得て魔大陸からの帰還に奮闘する中で俺達はロキシーの実家にもお世話になつたロキシーの話のお礼に母口カリーノの体を求めてしまつたのも魅惑の102歳だつたのだから仕方ない：

「セツクスなんて40年ぶりだわ。ロインつたら全然相手してくれないのよ？」

「ミグルド族はなかなか子供ができないの、好きなだけ出して♥」

「ロキシーはこれを教え子に渡したの？
あの子つたら…♥♥」

将来ゼニスと二人で姉妹井を堪能できるよう『仕込み』をしておこう

「君は姉さんともこんな事を!?
あつ、待つで、そこは弱いのにお♥♥
イグツ♥♥」

帰郷を目指した旅路の途中
甥に発情する嫁き連れシヨタコンアラサー女の
テレーズと出会った
ゼニスの妹であり顔もそつくりの美女である彼女に
執拗に愛でられるのは困惑もあつたが

「母様より胸は大きいけれど、
クソザコマンコなのは姉妹ども一緒ですね
鍛えでるんでしょう、もつと締めて下さいよ」

「ルーデウス君は本当に可愛い顔をしていて、
ここはこんなにたくましいのだね
ますます気に入つた、食べさせてもらうよ?」

転移事件以来、
リーリヤは身体を売つて愛娘を
俺のために育ててくれていたという

その忠義に敬意を払つてしまつかり
味わわせてもらおう
リーリヤにも褒美が必要だな

「お兄ちゃんの
おちんぽ様のために、
お馬さんで練習してきただよ♥」

「ルーデウス様、
どうかこの子の初めてを
頂いてはくれませんか。
人間相手は初めてです♥」

「お兄ちゃん
もう10回は出してるのに
まだまだ元気なの♥」

「ルーデウス様…おほおつ♥
私のの中古汚マジコにもご慈悲頂いて…
ますますお慕いしております♥♥」

道中立ち寄った
シーローン王国にて騒動の末に
リーリヤとの再開を果たすことができた

ボアレス家は消滅していたが、
ギレースと共にいたビルダは無事で何よりだ

「お嬢様、本当に僕がいなくて
一日でも我慢できるんですか？」

「無理い、絶対無理
こんなに気持ちいいのに
ルーデウスがないと我慢できない♥♥」

エリスはギレースと共に
剣の聖地で修行して
俺を守れる力を手に入れたいという

ずっとお預けしていた
エリス15歳の処女マンコを
味わつてからお別れだ

俺はゼニスを探して飼い主らしくしないとな

「私、ルーデウスの子猫が
欲しいニャん♥」

「ぼくのとそつくりの張り型、
作つておきましたから
毎日ちゃんと使つて
腔トレして下さいね」

ここからは
アニメ二期キャラクター編

問
話

『サラとの情熱的な
一夜を過ごす事に成功したルーデウス』





『オナホシは転移魔法の研究を手伝わせるルーティスに
体を求められる度に足躊躇にしていたが』

『足繁く通い積極的な協力を続ける姿に根負けして
一度だけという条件で受け入れてしまい……』



『アリエル王女は配下の
フィツツを手に入れる
既に調教されていた彼女を
気に入り変態的欲求を満たす
酷使し続けていた』



『蒸れに蒸れた足裏を顔面に押し付け、
オナニーを強要して愉悦に浸る光景は
王宮での日常だった』





『ルーデウスを真の主人と見始めたアリエルは
ファイツツと共に自ら首輪を
委ねて調教管理を願い出る』

『人間離れした巨根ちんぽに
蹂躪されて歓喜の雄叫びを
毎夜あげるのだった』

『ゼニース救出のため
魔転物に迷宮に囚われ凌辱の限りを受けていた』

『催淫効果のある
体液で生がされ淫紋を刻まれる彼女が
救出されるまで残り1ヶ月。。。』



あとがき

ごきげんよう、とくぴょんです。

この度は本作をお買上頂きましてありがとうございます。

本を出すのはもう3年ぶりかな…？みんな元気～～？
同人誌をどうやって作るのか、もう色々忘れかけていました…。

無職転生はweb版時代からのファンなので、描く機会があつてとてもうれしいです！
でも同人界隈ではあまり盛り上がりっていない印象もありますね。
先のストーリーもある程度構想しており、続きをとても描きたいのですが、
出せるかどうかは本作の売上次第かもしれないで、どうかよく売れますように…！

本作についての補足ですが、作中の偽ルディは呪子のような存在です。
常に女を女を惹きつける力が周りに働き、例え母親だろうと関係ないという、
いわゆる異世界転生チート能力者の設定ですねw
アイシャとルノンも偽ルディの子供かな…？パウロごめんなさい！

ちなみに今回のストーリーは知人のさばとんさんと相談しながら決めました。
さばとんさんがいなければ新刊は出せませんでしたね、ご協力ありがとうございました！

この本に対する感想などいつでもお待ちしております！
Twitterなどでぜひ皆さんの感想を聞かせてください！！

ではまた次の新刊でお会いしましょう！
引き続きchesteredをよろしくお願いします！！！！

とくぴょん
2022-12-27 08:34am

◆奥付◆

発行日 2022年12月31日
誌名 浮色転生～魂変わったら 本気射精す～
著者 とくぴょん
発行 chested
印刷 株式会社BRO'S
Email ardnades@gmail.com
URL <https://twitter.com/ardnades>

ご意見ご感想連絡先は

Email◆ardnades@gmail.com
pixiv◆42479
twitter◆ardnades
plurk◆ardnades
fanbox◆<http://ardnades.fanbox.cc>
fantia◆<http://fantia.jp/ardnades>
patreon◆<https://www.patreon.com/ardnades>
skeb◆<https://skeb.jp/@ardnades>

18歳未満の購入・閲覧は禁止させて頂きます。



for adult only
Presented by chested 2022